

四 半 期 報 告 書

(第81期第3四半期)

今村証券株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
3 【業務の状況】	9
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期財務諸表】	12
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 2020年2月10日

【四半期会計期間】 第81期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 今村証券株式会社

【英訳名】 The Imamura Securities Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 今村直喜

【本店の所在の場所】 石川県金沢市十間町25番地

【電話番号】 076-263-5222(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 吉田栄一

【最寄りの連絡場所】 石川県金沢市十間町25番地

【電話番号】 076-263-5222(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 吉田栄一

【縦覧に供する場所】 福井支店
(福井県福井市新田塚一丁目80番36号)

富山支店
(富山県富山市本町6番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第80期 第3四半期累計期間	第81期 第3四半期累計期間	第80期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
営業収益	(千円)	2,256,105	2,384,445	2,911,184
(内、受入手数料)	(千円)	(2,195,840)	(2,327,326)	(2,832,880)
純営業収益	(千円)	2,240,714	2,365,854	2,890,547
経常利益	(千円)	349,107	388,024	350,337
四半期(当期)純利益	(千円)	216,274	242,864	205,894
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	—	—	—
資本金	(千円)	857,075	857,075	857,075
発行済株式総数	(株)	2,660,000	2,660,000	2,660,000
純資産額	(千円)	8,298,707	8,592,404	8,339,950
総資産額	(千円)	15,740,904	16,472,242	14,856,176
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	81.31	91.31	77.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
1株当たり配当額	(円)	—	—	12.50
自己資本比率	(%)	52.7	52.2	56.1
自己資本規制比率	(%)	632.3	698.8	647.9

回次		第80期 第3四半期会計期間	第81期 第3四半期会計期間
会計期間		自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	16.24	58.24

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法適用対象会社がないため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 上記の比率は以下の算式により算出しております。

$$\cdot \text{自己資本比率} = \frac{\text{資本合計}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100 (\%)$$

・自己資本規制比率は、金融商品取引法第46条の6第1項の規定に基づき、金融商品取引業等に関する内閣府令の定めにより算出したものであります。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当社は関係会社を有していません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社の事業は投資・金融サービス業という単一セグメントであるため、セグメントごとの分析については記載を省略しております。

(1) 財政状態の分析

① 資産

当第3四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ16億16百万円増加し、164億72百万円となりました。

現金・預金が13億42百万円、預託金が4億29百万円、募集等払込金が1億49百万円それぞれ増加し、信用取引資産が4億10百万円減少したこと等により流動資産は15億30百万円増加し、129億6百万円となりました。固定資産は85百万円増加し、35億65百万円となりました。

② 負債

預り金が14億8百万円、受入保証金が1億52百万円それぞれ増加し、信用取引負債が2億37百万円減少したこと等により負債合計は13億63百万円増加し、78億79百万円となりました。

③ 純資産

利益剰余金が2億9百万円増加し、評価・換算差額等が42百万円増加したことにより純資産は2億52百万円増加し、85億92百万円となりました。

当社は、金融機関等からの借入れは、信用取引にかかる借入れ及び一時的な資金繰りに必要な借入れを除いて行わない方針であります。信用取引での顧客への金銭等の貸付は、証券金融会社から借り入れる他、自己資金を充てています。また、固定資産の取得についても自己資金で賄っております。

当第3四半期累計期間は大型の設備投資がなく有形固定資産及び無形固定資産がともに減少したものの投資有価証券の値上がり等により固定資産は85百万円の増加（前事業年度は42百万円の増加）となりました。

また、利益剰余金の増加等により純資産は85億92百万円となりました。

(2) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国の景気は、緩やかに回復しているものの米中貿易摩擦問題等通商政策の動向が世界経済に与える影響に留意する状況が続いております。

国内の株式市場では21,500円台から始まった4月の日経平均株価は22,000円台の高値を付けたものの、米中貿易摩擦の激化等から、新元号「令和」初の取引からの6日連続安を含め、4月の高値22,362円から6月の安値20,289円まで2,000円を超す大幅な下落となりました。その後は行き過ぎた警戒感が緩み21,000円台を回復しましたが、8月に入ると米国による対中関税第4弾の公表や、米国の長短金利差の逆転を受けて再びリスク回避姿勢が強まり、20,100円台まで下値の水準を切り下げました。9月に入り米中通商協議が10月に再開されることが伝わると、円安進行もあって上昇に転じ、22,000円台を回復しました。10月には取引時間中に23,000円を突破し、その後も海外投資家による買い越しが続いたことや、為替市場が1ドル=109円前後で安定していることが株価を下支えしました。12月に入ると米中貿易協議の部分合意や英国総選挙の結果が好感され、取引時間中に1年2か月ぶりに24,000円を突破し、8月の安値20,110円から12月の高値24,091円まで約4,000円の大幅な上昇となり、日経平均株価は当第3四半期を23,656円で終わりました。

このような状況の中、当社は地域密着型の対面営業を行う証券会社として、株式営業や債券販売、投資信託販売を中心に営業を展開しました。株式営業においては、「情報シャトル特急便」、「Imamura Report」等当社作成の情報誌に加え、専門調査機関の作成するレポートによる情報提供等、お客様のニーズにお応えする提案・サポートを積極的に行いました。債券販売においては、他社株転換条項付円建社債や日経平均株価連動円建社債の販売を継続的に推進するとともに、福井県債、北陸電力債や、投資を通じてSDGsの実現に貢献することができる外貨建てグリーンボンドも取り扱いました。投資信託販売においては、米国株式配当貴族（年4回決算型）をはじめ多種類の投資信託を取り扱いました。また、ホームページの当社取扱い投資信託の基準価額一覧ページをリニューアルして利便性の向上を図ったほか、少人数向けセミナーの開催や投資信託分析ツールの導入によりお客様へのサービス拡充に努めました。

その結果、当第3四半期累計期間の営業収益は23億84百万円（前年同期比5.7%増）、純営業収益は23億65百万円（同5.6%増）、経常利益は3億88百万円（同11.1%増）、四半期純利益は2億42百万円（同12.3%増）となりました。

当第3四半期累計期間の主な収益、費用の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第3四半期累計期間の受入手数料の合計は23億27百万円（前年同期比6.0%増）となりました。その内訳は次のとおりであります。

・委託手数料

株券に係る委託手数料は9億78百万円（同9.4%増）となりました。受益証券を含めた委託手数料の合計は9億88百万円（同8.6%増）となりました。

・引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料は11億79百万円（同11.0%増）となりました。

・募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は32百万円（同48.4%減）となりました。

・その他の受入手数料

その他の受入手数料は1億26百万円（同21.0%減）となりました。

② トレーディング損益

トレーディング損益は23百万円（前年同期比25.3%増）となりました。

③ 金融収支

金融収益が33百万円（前年同期比19.2%減）、金融費用が18百万円（同20.8%増）となった結果、差し引き金融収支は14百万円（同43.0%減）となりました。

④ 販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は19億96百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

当第3四半期累計期間の受入手数料の合計は23億27百万円（前年同期比6.0%増）で、その商品別内訳は、株券9億81百万円（同9.1%増）、債券11億79百万円（同11.2%増）、受益証券1億13百万円（同35.8%減）、その他52百万円（同8.9%減）であります。前年同期に比べ、受益証券部門とその他部門の手数料が減少しましたが、株券部門と債券部門の手数料が増加し、受入手数料合計は1億31百万円増加しました。その結果、当社が目標とする経営指標である経費カバー率は69.9%（前第3四半期累計期間は71.0%）と目標とする80%には届きませんでした。

また、当社は経営戦略の一つとして「新規顧客の獲得」に注力しており、5年間で15,000口座の新規顧客の獲得を目指しております。前事業年度は単年度の目安となる3,000口座を上回り、当第3四半期累計期間においても進捗率は85.5%と着実に伸びております。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,000,000
計	5,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,660,000	2,660,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。
計	2,660,000	2,660,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	2,660,000	—	857,075	—	357,075

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,659,300	26,593	単元株式数は100株であります。 完全議決権株式であり、権利内容に 何ら制限のない当社における標準と なる株式であります。
単元未満株式	普通株式 700	—	—
発行済株式総数	2,660,000	—	—
総株主の議決権	—	26,593	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式82株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

(注) 当社は、単元未満自己株式82株を保有しております。

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

3 【業務の状況】

(1) 受入手数料の内訳

① 科目別内訳

(単位：千円)

	前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間
委託手数料	910,476	988,806
(株 券)	(894,623)	(978,382)
(受益証券)	(15,852)	(10,423)
引受け・売出し・特定投資家向け売 付け勧誘等の手数料	1,061,965	1,179,233
(株 券)	(1,076)	(-)
(債 券)	(1,060,889)	(1,179,233)
募集・売出し・特定投資家向け売付 け勧誘等の取扱手数料	62,943	32,506
(株 券)	(61)	(85)
(債 券)	(28)	(35)
(受益証券)	(62,853)	(32,386)
その他	160,455	126,779
(株 券)	(4,116)	(3,128)
(債 券)	(10)	(5)
(受益証券)	(98,185)	(70,683)
(そ の 他)	(58,142)	(52,961)
合 計	2,195,840	2,327,326

② 商品別内訳

(単位：千円)

	前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間
株券	899,878	981,596
債券	1,060,928	1,179,273
受益証券	176,891	113,494
その他	58,142	52,961
合 計	2,195,840	2,327,326

(2) トレーディング損益

(単位：千円)

	前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間
株券	3,362	3,083
債券	14,301	17,833
その他	1,299	2,840
合 計	18,963	23,756

(3) 株券売買高（先物取引を除く）

(単位：千円)

	前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間
株券	99,469,575	111,657,006
（受託）	（ 99,317,508）	（ 111,464,850）
（自己）	（ 152,067）	（ 192,155）

(4) 引受け・募集・売出しの取扱高

(単位：千円)

		前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間
引受高	株券（金額）	22,887	—
	債券（額面金額）	27,270,608	29,581,803
募集・売出しの取扱高	株券（金額）	24,573	2,337
	債券（額面金額）	27,276,768	29,594,143
	受益証券（額面金額）	43,643,138	50,306,991

(注) 募集・売出しの取扱高は、売出高及び私募の取扱高を含んでおります。

(5) 自己資本規制比率

		前第3四半期 会計期間末	当第3四半期 会計期間末
基本的項目(千円)	(A)	7,955,271	8,154,506
補完的項目(千円)	その他有価証券評価差額金 (評価益)等	343,436	437,898
	金融商品取引責任準備金等	17,044	17,041
	一般貸倒引当金	822	690
	(B)	361,303	455,630
控除資産(千円)	(C)	2,748,186	2,742,836
固定化されていない自己資本(千円)	(D) (A) + (B) - (C)	5,568,388	5,867,300
リスク相当額(千円)	市場リスク相当額	144,336	163,383
	取引先リスク相当額	66,510	55,062
	基礎的リスク相当額	669,753	621,147
	(E)	880,600	839,592
自己資本規制比率(%)	(D) / (E) × 100	632.3	698.8

(注) 金融商品取引法第46条の6第1項の規定に基づき、金融商品取引業等に関する内閣府令の定めにより算出したものであります。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）並びに同規則第54条及び第73条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」（昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則）に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	4,780,696	6,123,147
預託金	3,522,071	3,952,045
顧客分別金信託	3,500,000	3,930,000
その他の預託金	22,071	22,045
約定見返勘定	30,339	91,531
信用取引資産	2,737,913	2,327,388
信用取引貸付金	2,575,735	2,177,496
信用取引借証券担保金	162,178	149,892
募集等払込金	4,042	153,341
短期差入保証金	148,884	145,021
前払費用	26,976	25,329
未収収益	74,675	55,366
その他の流動資産	50,814	33,848
貸倒引当金	△784	△690
流動資産計	11,375,631	12,906,330
固定資産		
有形固定資産	2,559,051	2,557,003
建物(純額)	1,431,389	1,419,760
器具備品(純額)	148,684	125,578
土地	978,977	1,011,663
無形固定資産	16,192	14,095
ソフトウェア	5,829	3,788
電話加入権	9,438	9,438
その他	923	868
投資その他の資産	905,302	994,813
投資有価証券	866,493	959,976
長期差入保証金	6,886	7,280
長期前払費用	871	1,801
その他	31,053	25,756
貸倒引当金	△1	△1
固定資産計	3,480,545	3,565,912
資産合計	14,856,176	16,472,242

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
信用取引負債	1,803,231	1,565,231
信用取引借入金	1,625,035	1,374,771
信用取引貸証券受入金	178,196	190,460
預り金	3,249,483	4,657,655
顧客からの預り金	2,766,918	3,406,629
その他の預り金	482,564	1,251,025
受入保証金	625,274	777,348
未払金	31,203	80,573
未払費用	26,590	44,002
未払法人税等	50,437	65,997
賞与引当金	205,940	116,500
役員賞与引当金	36,260	33,340
流動負債計	6,028,421	7,340,649
固定負債		
繰延税金負債	92,072	137,839
退職給付引当金	2,814	3,836
役員退職慰労引当金	375,873	380,471
固定負債計	470,760	522,146
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	16,087	16,083
商品取引責任準備金	957	958
特別法上の準備金計	17,045	17,041
負債合計	6,516,226	7,879,838
純資産の部		
株主資本		
資本金	857,075	857,075
資本剰余金		
資本準備金	357,075	357,075
資本剰余金合計	357,075	357,075
利益剰余金		
利益準備金	125,000	125,000
その他利益剰余金		
別途積立金	6,000,000	6,200,000
繰越利益剰余金	605,865	615,480
利益剰余金合計	6,730,865	6,940,480
自己株式	△124	△124
株主資本合計	7,944,891	8,154,506
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	395,059	437,898
評価・換算差額等合計	395,059	437,898
純資産合計	8,339,950	8,592,404
負債・純資産合計	14,856,176	16,472,242

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
営業収益		
受入手数料	2,195,840	2,327,326
委託手数料	910,476	988,806
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	1,061,965	1,179,233
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	62,943	32,506
その他の受入手数料	160,455	126,779
トレーディング損益	18,963	23,756
金融収益	41,300	33,362
営業収益計	2,256,105	2,384,445
金融費用	15,390	18,590
純営業収益	2,240,714	2,365,854
販売費・一般管理費		
取引関係費	186,210	179,915
人件費	1,329,326	1,459,148
不動産関係費	100,409	63,548
事務費	45,700	46,031
減価償却費	93,270	97,452
租税公課	40,566	40,224
貸倒引当金繰入額	—	△93
その他	107,444	109,976
販売費・一般管理費計	1,902,927	1,996,206
営業利益	337,786	369,648
営業外収益	※1 17,164	※1 19,721
営業外費用	※2 5,844	※2 1,344
経常利益	349,107	388,024
特別利益		
金融商品取引責任準備金戻入	26	3
特別利益計	26	3
特別損失		
固定資産除売却損	4,879	439
商品取引責任準備金繰入額	0	0
特別損失計	4,879	439
税引前四半期純利益	344,254	387,588
法人税、住民税及び事業税	70,025	117,722
法人税等調整額	57,953	27,002
法人税等合計	127,979	144,724
四半期純利益	216,274	242,864

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
当座貸越極度額	5,000,000千円	5,000,000千円
借入実行残高	－ 〃	－ 〃
差引額	5,000,000千円	5,000,000千円

(四半期損益計算書関係)

※1 営業外収益の内訳は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
受取配当金	16,314千円	17,358千円
その他	849 〃	2,363 〃
計	17,164千円	19,721千円

※2 営業外費用の内訳は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
為替差損	5,800千円	1,287千円
その他	43 〃	57 〃
計	5,844千円	1,344千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	93,270千円	97,452千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	66,497	25.00	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	33,248	12.5	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

当第3四半期会計期間に係る四半期貸借対照表計上額と時価との差額及び前事業年度に係る貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期会計期間に係る四半期貸借対照表計上額その他の金額に前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の当第3四半期会計期間末の契約額等は、前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業は、投資・金融サービス業という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1 株当たり四半期純利益	81円31銭	91円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	216,274	242,864
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	216,274	242,864
普通株式の期中平均株式数(株)	2,659,918	2,659,918

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

今村証券株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内 田 和 男 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近 藤 久 晴 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている今村証券株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第81期事業年度の第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、今村証券株式会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 2020年2月10日

【会社名】 今村証券株式会社

【英訳名】 The Imamura Securities Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 今村直喜

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 石川県金沢市十間町25番地

【縦覧に供する場所】 福井支店
(福井県福井市新田塚一丁目80番36号)

富山支店
(富山県富山市本町6番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長今村直喜は、当社の第81期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

